

主婦の団結～主婦連合会と主婦会館～

主婦連合会

主婦連合会(主婦連)は、昭和23(1948)年、奥むめおの主導で「不良マッチ退治主婦大会(東京)」をきっかけに結成され、奥むめおは初代会長に選ばれました。主婦連合会は、国内各地に生まれた主婦グループを連合し、消費者である主婦の声を反映させ、身近な家庭生活の面から社会・政治・経済問題に取り組み、物価値上げ反対、科学的品質検査に基づく不良商品追放などの運動を展開しました。また、全国消費ゼミナールや主婦大学を開催し、消費者教育も精力的に行いました。「団結」と書かれたプラカードを手にくりひろげられた主婦連の物価値上げ反対運動や主婦の店運動は、戦後の生活安定に大きな役割を果たしたといえます。

主婦連のシンボル「しゃもじ」は、昭和26(1951)年から登場します。大鍋の煮物をかき混ぜる(集団活動のコツ)、闘いとる意のめしとる心(要求貫徹)、豊かな食糧(当時は米と麦)をよそうという主婦の夢がこめられていました。「主婦の歌」(野口倭代作詞)は、主婦連結成時に作られ、活動に参加する人たちの愛唱歌となりました。



東京・自由ヶ丘駅前にて(昭和23年)

主婦の歌

作詩(マ) 野口倭代
作曲 竹内 薫

一、物価があがるとストライキ
いくら給料があがっても
物価値あがり追いつけぬ
追えない物価を追うよりも
物価あげぬが主婦のちえ
それ 主婦のちえ

二、平和日本を口ぐせに
いくら政府がとなえても
小売業者や消費者が
団結しなけりゃ無駄なこと
引込み思案は主婦の恥
それ 主婦の恥

三、やぶれ因習ふるい夢
日本全土の家庭から
明るい希望をもつように
細い腕でもより合せ
どんとぶつかりゃ主婦の勝
それ 主婦のかち

主婦会館

昭和31(1956)年、主婦連の活動拠点として、研修、宿泊、日用品試験室を備えた主婦会館が東京四谷に完成しました。総工費1億2千万円、うち1割が主婦の募金、9割が出版社、化粧品・繊維製品・食料品製造会社などの企業や有力者からの寄付によるものでした。この主婦会館の建設は、奥むめおの政治力がいかに大きかったかを物語っています。